

「NPO法人ふくりび
アピランスサポートセンターあいち」 支援

ストラディヴァリウス
グアルネリ・デル・ジェスで奏でる
渡辺玲子 & イム・ジヨン
デュオ・コンサート



© Yuji Hori



© Rami Hyun

2016年11月18日（金）名古屋市
三井住友海上しらかわホール

ごあいさつ

この度は、特定非営利活動法人全国福祉理美容師養成協会（ふくりび）の活動支援コンサートにご足労頂き、誠にありがとうございます。ふくりびは、1997年より任意団体として愛知県内の介護施設などで活動を始めました。2007年には法人化し、「誰もがその人らしく美しく過ごせる社会の実現」を目指して、理美容・医療・介護・ファッションなどの多職種の専門家とともに、「得意を活かして社会貢献活動」をするプロフェッショナルNPOとして活動して参りました。具体的には、国内での高齢者・障害者・がん患者へのアピアランス（外見）サポート、途上国での職業訓練などを実施しています。

要介護高齢者・障害者・がん患者へのアピアランスサポートは、生活の質の向上や社会性の維持といった面から、近年、医療・介護の現場で重要視されてきており、多くの医療関係者と連携しながら活動を広げています。「外見のサポートは内面の活力に繋がる」。21年に亘る活動から、そう感じています。

現在特に力を入れているのは、がん患者のアピアランスサポートです。昨年11月には、社会と繋がりながら闘病する方々の髪・肌・爪など外観の悩みに応えるため、看護師・美容師・ネイリストが連携し、がん患者の対応をする民間で初めてのアピアランスサポート専門施設「アピアランスサポートセンターあいち」を、愛知県がんセンター徒歩1分の場所に開設致しました。NPO法人化10周年の節目として、「アピアランスサポートセンターあいち」の活動を広げていくため、この度、日本音楽財団のご協力により、本チャリティ・コンサートを開催するに至りました。

日頃から私たちの活動を応援して下さっている支援者の皆さまはもとより、医療・福祉関係者・美容関係者・患者の皆さまにも、銘器の素晴らしい音色をお楽しみ頂けましたら幸いです。

NPO法人全国福祉理美容師養成協会
理事長 赤木 勝幸

「ストラディヴァリウス グァルネリ・デル・ジェスで奏でるデュオ コンサート」へご来場いただき、誠にありがとうございます。日本音楽財団は、創立20周年を迎えた1994年より、クラシック音楽を通じた国際貢献として楽器貸与事業を開始いたしました。ストラディヴァリウス18挺、グァルネリ・デル・ジェス2挺を保有し、世界を舞台に活躍する一流の演奏家や若手有望演奏家に、国籍を問わず無償で貸与しています。また、世界的文化遺産ともいわれるこれらの楽器を次世代へ継承するため、管理者として保全に努めています。日本音楽財団の事業は、日本財団の支援により実施しています。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今夜は、2015年ベルギーのエリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者で、副賞として当財団のストラディヴァリウス1708年製ヴァイオリン「ハギンス」を次期コンクールまで4年間貸与しているイム・ジヨンさんと、世界的なヴァイオリニストでグァルネリ・デル・ジェス1736年製ヴァイオリン「ムンツ」を貸与している渡辺玲子さんの演奏をお楽しみいただきます。ピアニストは、共演ピアニストとして数多くのソリストが厚い信頼を寄せている林絵里さんです。普段はソリストとして活動しているイムさんと渡辺さんの共演はもとより、ヴァイオリンの二大銘器を一夜で聴けるまたとない機会です。是非余すところなくお楽しみ下さい。

本日の演奏会のチケット売上金はすべて、ふくりびが運営する「アピアランスサポートセンターあいち」での活動に充てさせていただきます。

公益財団法人日本音楽財団
会長 塩見 和子

PROGRAM

カミーユ・サン＝サーンス
Camille Saint-Saëns (1835-1921)

ウジェーヌ・イザイ 編曲
Arranged by Eugène Ysaÿe (1858-1931)

「6つの練習曲」作品52第6番「ワルツの形式で」
“In the Form of a Waltz” from “Six Etudes”, Op.52-6

イム・ジヨン 林 絵里

(約8分)

ジャン＝マリー・ルクレール
Jean-Marie Leclair (1697-1764)

2つのヴァイオリンのためのソナタ ホ短調 作品3 第5番
Sonata for 2 Violins in E minor, Op.3 No.5

I. Allegro ma poco

II. Gavotte

III. Presto

渡辺 玲子 イム・ジヨン

(約10分)

ニコロ・パガニーニ
Niccolò Paganini (1782-1840)

モーゼ幻想曲

Moses Fantasy

渡辺 玲子 林 絵里

(約9分)

～渡辺 玲子 楽器解説～

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル
Georg Friedrich Händel (1685-1759)

2つのヴァイオリンとピアノのためのトリオ・ソナタ
ト短調 作品2 第6番

Trio Sonata for 2 Violins and Piano in G minor, Op.2 No.6

I. Andante - Allegro

II. Arioso

III. Allegro

渡辺 玲子 イム・ジヨン 林 絵里

(約11分)

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
Pyotr Ilyich Tchaikovsky (1840 -1893)

ワルツ・スケルツォ 八長調 作品34
Valse-Scherzo in C major, Op.34
イム・ジヨン 林 絵里

(約6分)

ベラ・バルトーク
Béla Bartók (1881-1945)

ルーマニア民俗舞曲集
Romanian Folk Dances
渡辺 玲子 林 絵里

(約6分)

ドミートリイ・ショスタコーヴィチ
Dmitri Shostakovich (1906-1975)

2つのヴァイオリンとピアノのための5つの小品
5 Pieces for 2 Violins and Piano
I. Prelude II. Gavotte III. Elegy
IV. Waltz V. Polka
渡辺 玲子 イム・ジヨン 林 絵里

(約11分)

ヘンリク・ヴィエニャフスキ
Henryk Wieniawski (1835-1880)

エチュード・カプリース 作品18 第2番 変ホ長調
Etudes-caprices, Op.18 No.2 in E-flat major
イム・ジヨン 渡辺 玲子

(約5分)

パブロ・デ・サラサーテ
Pablo de Sarasate (1844-1908)

2つのヴァイオリンとピアノのための「ナバラ」作品33
Navarra for 2 Violins and Piano, Op.33
イム・ジヨン 渡辺 玲子 林 絵里

(約6分)

ストラドとデルジェス

渡辺 玲子

“Stradivari vs Del Gesu”（ストラド対デルジェス）と入れてインターネットで検索すると、1万以上のサイトがヒットする。本格的な音の比較研究からそれぞれの工房の歴史、市場価値の変遷、名演奏家たちがどちらを好んで使ったか、など、かなりの情報量である。17世紀から18世紀にかけてイタリアで生み出された偉大な楽器に対する世間の関心の高さを、改めて認識した形となった。

私自身は、幸運なことに、この両方の偉大な楽器たちとこれまでに複数の関わりを持たせてもらっている。日本音楽財団の演奏会で、一晚にストラドとデルジェスを弾き比べたという経験もある（写真参照）。

ストラドとデルジェスは、どちらも素晴らしい音の響きを持ち、オーケストラが分厚く鳴っていても、ソリストは埋もれることなくのびやかに歌うことができる。純粋な倍音の響きのおかげで、どんな弱音でもしっかりとした音の輪郭が立って聞こえてくるのだ。

しかし音の個性は、まったく異なっている。一般的には、ストラドはシルクのように滑らかな高音域、デルジェスは暗くて力強い中低音域が特徴的とされる。私の経験でも、ストラドの高音域は、弾きながらうっとりとしてしまう。1725年製ストラド「ウィルヘルミ」を使った最後の演奏会では、メンデルスゾーン協奏曲を弾いたが、美しい高音域での飛翔するような感覚は、言葉に表しがたいほどだった。インターネットで読んだノルウェーの研究者の発表でも、35台のストラド&デルジェスの録音をなるべく近い条件になるものを選んで計測した結果、平均的にストラドは200~250Hzの低いG線の音域と1.6kHz以上の高音域の響きが強く、デルジェスは315Hzから1.25kHzの中低音域が強いと書かれている。演奏家が体感したものと、計測結果は概ね一致しているといえるだろう。

“The Art of Violin” というフランスの2時間のフィルムを、私の秋田の国際教養大学の講義では教材の一つとして使っている。往年の名ヴァイオリニスト達の演奏フィルムが次々と出てくるのだが、その中で「ストラド対デルジェス」というチャ

プターがあり、どの演奏家がどちらの楽器を使用しているかを並べて比較している。オイストラフやイダ・ヘンデルはストラド、コーガンやスターンはデルジェス、など。パールマンのコメントも興味深い。「オイストラフのストラドはそれほど質の良いものではなかったが、彼が弾くと素晴らしい音を出した。」一般に、「ストラドは整っていて弾きやすく、デルジェスは弾きこなすのに力がある」と言われているが、それも演奏家の身体的な個性や求める音によって、違うのだろうと思う。

私の経験で言えば、最初に出会ったストラドが1709年製「エングルマン」だったが、弾き方を会得するまでにはかなり苦労をした。ストラドという楽器の素晴らしい表現力によりやくついていけるようになってからも、楽器それぞれの個性があり、別のストラドに換わると新たに数か月から一年は自分の音が鳴らせるまでに必要だった。デルジェス「ムンツ」に関しては、それに比べて比較的すんなりと、関係を築くことができたように思う。一つには楽器のサイズが小ぶりであることと、そして私の求めている心の底から出すような暗く深い音が、この楽器の持つ音と合っていたのだと思う。



2007年2月 浜離宮朝日ホールでのストラド&デルジェス コンサート



© Yuji Hori

渡辺玲子

ガールネリ・デル・ジェス 1736年製 ヴァイオリン「ムンツ」使用

東京出身。超絶的なテクニック、玲瓏^{れいろ}で知的な音楽性、切れ味鋭い官能性と幅広いレパートリーで、世界のヴァイオリン界をリードする逸材である。1984年ヴィオッティ、86年パガニーニ国際コンクールで最高位受賞。以来、ロンドン、ウィーン、ドレスデン、ワシントン、ロサンゼルス、サンクトペテルブルクなど世界のオーケストラと共演。1999年にはニューヨークのリンカーン・センターにおいてニューヨーク・リサイタル・デビューを果たし、NYタイムズ紙はその演奏を「圧倒的なテクニック、華麗な音色、劇的な音楽表現」と評した。2004年からは演奏活動の傍ら教育にも携わり、秋田の国際教養大学特任教授として、音楽を専攻していない若者にも音楽の深さを知ってもらおうと、秋学期に集中講義「音楽と演奏」を行っている。これまでに日本音楽財団保有ストラディヴァリウス1709年製「エングルマン」と、ストラディヴァリウス1725年製「ウィルヘルミ」を演奏。現在は、同財団よりガールネリ・デル・ジェス1736年製「ムンツ」が貸与されている。

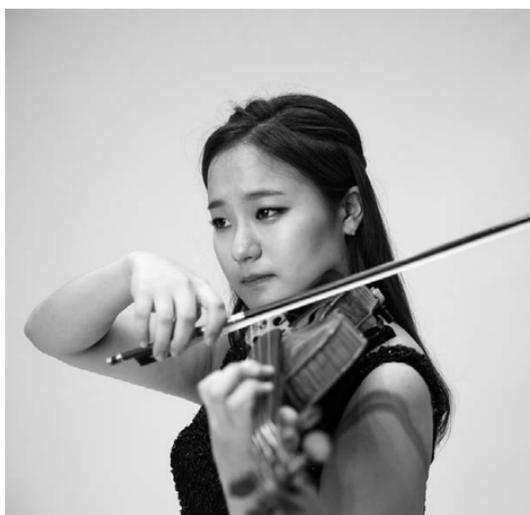
グアルネリ・デル・ジェス 1736年製ヴァイオリン 「ムンツ」



Photo by S. Yokoyama

バルトロメオ・ジュゼッペ・グアルネリ(1698-1744)は、今日に至るまで偉大な弦楽器製作者のひとりとしてアントニオ・ストラディヴァリと並び称されている。楽器の内側のラベルにイエス・キリストを示す IHS の符号と十字架が書かれていることから、彼が製作した楽器は「デル・ジェス」(イエスの)と呼ばれている。力強く深みのある音色が特色で、弓の圧力に耐えうる特質を備えている。

この楽器はかつて、イギリスの収集家ムンツが一時期所有していたことから、この名前で親しまれている。日本音楽財団はストラディヴァリとデル・ジェスによって同じ1736年に製作された2挺の「ムンツ」を保有しており、2007年2月には、それぞれの楽器の音色の特色を聴き比べるために、両方の楽器を渡辺玲子氏が演奏したコンサートを実施している。



イム・ジヨン（林志映）

ストラディヴァリウス 1708年製ヴァイオリン「ハギンス」使用

2015年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールにて優勝、副賞として当財団からストラディヴァリウス1708年製ヴァイオリン「ハギンス」を次期コンクール開催までの4年間貸与されている。1995年ソウルに生まれ、7歳でヴァイオリンを始めた。現在は韓国芸術総合学校（国立大学）にてキム・ナムユン教授に師事している。2013年ユーロアジア国際コンクールで優勝した他、インディアナポリス、モントリオール国際音楽コンクール、アンリ・マルトー国際ヴァイオリン・コンクール等数々の国際コンクールにて入賞。これまでに日本、アメリカ、カナダの他、ドイツ、スイス等のヨーロッパ諸国でコンサートツアーを行っている。また、国際音楽祭にもたびたび招待され、マキシム・ヴェンゲーロフ、ジョエル・スミルノフ、原田幸一郎等著名なヴァイオリニスト・指揮者との共演を重ねている。2015-16年シーズンは、ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールの企画による世界ツアーを行うほか、NHK交響楽団との共演や、ワーナークラシックから初のCDリリースが予定されている。

ストラディヴァリウス 1708年製ヴァイオリン 「ハギンス」



Photo by S. Yokoyama

演奏家なら誰でも一度は手にしたいと憧れるストラディヴァリウスは、今からおよそ300年前のイタリア・クレモナで作られた。当時、教会音楽や宮廷音楽が盛んであったため、弦楽器の需要や重要性はますます高まっていた。多くの弦楽器製作者がいる中でアントニオ・ストラディヴァリ（1644～1737）の技術は群を抜いて秀でていた。ヴァイオリンを理想的な形に完成させ、彼の楽器は音色もさることながら見た目の美しさも加味され、瞬く間に人気を博した。その人気は現代も衰えることなく弦楽器の最高峰とされている。ストラディヴァリは94歳の最晩年まで製作を続け、約1,100挺の楽器を製作したといわれている。そのうち、現存するヴァイオリンは約600～700挺といわれている。

この「ハギンス」はイギリスの天文学者であるウィリアム・ハギンス卿（1824～1910）が、1880年頃ウィーンの皇帝からこの楽器を購入し、所有していたことから「ハギンス」と呼ばれている。日本音楽財団は1997年よりベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者に副賞として次のコンクールまでこの楽器を貸与し、コンクールの発展と演奏家の技術向上に寄与している。



林 絵里

ピアノ

東京に生まれ、4才よりピアノを始める。1977年第31回全日本学生音楽コンクール、奨励賞受賞。桐朋女子高校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。ピアノを樋口恵子、弘中孝、故中島和彦の各氏に師事。卒業後、同大学に於いて、2年間、弦楽科伴奏研究員を務める。1986年の第8回チャイコフスキー国際音楽コンクールのチェロ部門で最優秀伴奏者賞を受賞。1986年より日本国際音楽コンクールヴァイオリン部門の公式ピアニストを務める。1991年、ミュンヘンにて、ワルター・ノータス氏に師事。これまで、スティーヴン・イッサーリス、エドアルド・メルクス、ドン・スク・カン、バルトゥミオ・ニジヨー、ヴィヴィアン・ハーグナー、エリック・シューマン、徳永二男、諏訪内晶子をはじめ、数多くの演奏家と共演。NHK 交響楽団メンバーとの室内楽演奏や、NHKFM、NHKテレビ「らららクラシック」出演など、共演ピアニストとして活躍中。



NPO ふくりびの活動

「誰もがその人らしく、 美しく過ごせる社会の実現」

理念を胸に、私たちは活動を続けていきます…

私たち、ふくりびは、
「誰もがその人らしく美しく過ごせる社会の実現」を目指し、
理美容・医療・介護・ファッションなどの他職種専門家が
「得意を活かして社会貢献活動」をするプロフェッショナルNPOです。
国内での高齢者・障害者・闘病患者支援、途上国での職業訓練などを実施しています。

NPO ふくりびの主な4つの活動分野

高齢者

介護施設や自宅への訪問理美容・高齢者向け
おしゃれイベント「ビューティーキャラバン」

がん患者

アピランスサポート・医療用ウィッグ・入院中の子供
のおしゃれイベント「ビューティーキャラバン for KIDS」

障害者

就活身だしなみ支援

途上国のユース

理美容職業訓練・ネイル技術指導など

※4つの活動分野をまたいだ就労支援も行っています。

アピランスサポートセンター



愛知県初
2015.11
OPEN

「闘病中でもキレイでいたい」

女性なら当たり前の気持ちを応援したい…それが私たちの願いです。

ウィッグ&ネイル アピランスサポートセンターあいちは、
抗がん剤治療中などに起こる**外見的（アピランス）な変化**に対する
悩みや不安をサポートするビューティーセンターです。
がん治療・抗がん剤の作用に関する知識・技術講習を受講済みの
経験豊富な看護師・美容師・ネイリスト・エステティシャンらが
親身になってサポートします。

このコンサートのチケットの売り上げのすべては、
アピランスサポートセンターあいちでの活動に充てさせていただきます。

- **特定非営利活動法人 全国福祉理美容師養成協会 (NPOふくりび)**
愛知県日進市香久山 1-2809 TEL: 052-801-5203
- **アピランスサポートセンターあいち (あびサポあいち)**
愛知県名古屋市千種区鹿子殿 3-3-1F TEL: 0120-352241

協賛:住友理工株式会社



協力:

ACCJ/NIS 中部ウォーカーソン

**NPO法人ふくりび活動支援
チャリティ・コンサート実行委員会メンバー:**

赤木勝幸

(NPO法人全国福祉理美容師養成協会 理事長)

伊藤かおり

(NPO法人小牧市民活動ネットワーク 事務局長)

岩岡ひとみ

(NPO法人全国福祉理美容師養成協会 事務局長)

木村樹生

(株式会社クラッセム 代表取締役)

津田秀和

(愛知学院大学経営学部 教授)

戸成司朗

(住友理工株式会社 CSR・社会貢献室長)

平田和大

(第一生命保険株式会社 星が丘営業オフィス・オフィス長)

藤岡喜美子

(NPO法人市民フォーラム21・NPOセンター 事務局長)

学生委員

田中みき(愛知学院大学経営学部 3年)

南泰成(愛知学院大学経営学部 2年)

主催：NPO法人ふくりび活動支援
チャリティ・コンサート実行委員会
日本音楽財団

共催：中日新聞社

助成：日本財団

後援：名古屋市、名古屋市教育委員会

協賛：住友理工株式会社